

1 2 環境影響評価準備書からの主な変更事項

環境影響評価書の作成にあたっては、大阪府知事の意見等を勘案して、準備書の記載事項について検討を加え、必要な追記・修正を行った。

環境影響評価準備書からの主な変更事項についてまとめたものを、表 1 2 - 1 に示す。

表 1 2 - 1 (1) 環境影響評価準備書からの主な変更事項

該当頁	主な変更事項（概要）	変更理由等
2 対象事業の名称、目的及び内容		
2-80	工事関連車両の運行にあたっての環境保全対策を追記した。	工事期間中に日最大 70 台程度の運行が想定されていることから、環境保全対策を検討した。
2-83	施設関係者車両の保全対策を追記した。	ごみ収集車等の走行に伴う排出ガスについて、供用時には、約 773 台/日の運行が想定されていることから、環境保全対策を検討した。
4 地域の概況		
4-61	大阪府自動車排出窒素酸化物及び自動車排出粒子状物質総量削減計画を第 4 次計画の内容に更新した。	令和 6 年 3 月に大阪府自動車排出窒素酸化物及び自動車排出粒子状物質総量削減計画〔第 4 次〕が策定されていることから評価書において修正した。
6 調査、予測及び評価の手法		
6-5	既存資料調査の調査方法の欄について、市のパンフレット等の参照箇所を修正した。	人と自然との触れ合いの活動の場の既存資料調査の調査方法の欄について、市のパンフレット等の参照箇所が異なっていたため修正した。
7 現況調査、予測及び評価		
7.1-11	拡散モデル等で使用する地上気象調査で観測した風向・風速のデータと、熊取町気象観測所及び末広公園自排局で観測した風向・風速のデータとのベクトル相関の結果を示した。	データの信頼性として確認するよう指摘があったため、ベクトル相関について確認したうえで記載した。
7.1-65、66	大気予測の地形影響の考慮に関する説明を追記した。	大気拡散式で、地形の影響について具体的にどのように考慮したか記載していなかったため追記した。
7.1-78	エネルギー回収推進施設等の稼働による煙突排出ガスの予測（短期高濃度予測）において、有効煙突高の算出に用いる煙突に近接する建物の高さを 30m に修正した。	有効煙突高の算出に用いる煙突に近接する建物の高さについて、2 章における計画建屋の高さ 30m と整合をとるため修正した。

表 1 2 - 1 (2) 環境影響評価準備書からの主な変更事項

該当頁	主な変更事項 (概要)	変更理由等
7.1-101 、 131	対象事業等の関連車両の走行に伴う排出ガスの予測及び工事関連車両の走行に伴う排出ガスの予測において、一般車の寄与濃度を考慮していない理由を追記した。	予測において一般車の寄与濃度を考慮していない理由を記載していなかったため追記した。
7.1-102 、 132	対象事業等の関連車両の走行に伴う排出ガスの予測におけるごみ運搬車両の排出係数について、ごみ運搬車両の車種分類及び大型車の排出係数を用いた旨を追記した。	ごみ運搬車両はどの排出係数を用いているか記載していなかったため追記した。
7.1-115	建設機械の稼働による排出ガスの予測について、発生源の設定方法を追記した。	建設機械の稼働による排出ガスの予測について、発生源を具体的にどのような設定でシミュレーションを行ったか記載していなかったため追記した。
7.2-5、 6、8、9	降雨時の流量・水質の換算係数の設定に関し、平常時及び降雨時の流量と濁度の設定根拠を追記した。	降雨時の流量・水質の換算係数の設定に関し、流量比率の算出方法、濁度比率の算出方法、兎田橋の濁度計測値の算出方法について記載していなかったため追記した。
7.3-3、 19、37	騒音に係る調査地点及び予測地点 SV-2 泉ヶ丘福祉会における、「騒音に係る環境基準」(平成 10 年 9 月 環境庁)に基づく地域類型について、一般地域の A A 類型の値から一般地域の B 類型の値とした。	騒音に係る調査地点及び予測地点 SV-2 泉ヶ丘福祉会「騒音に係る環境基準」(平成 10 年 9 月 環境庁)に基づく地域類型について 4 章の類型当てはめと整合をとるため修正した。
7.3-10	エネルギー回収推進施設等の稼働に伴う施設騒音の予測式について、建屋の室間の騒音伝播の計算式を追記した。	建屋の室間の騒音伝搬予測に用いた算式について記載していなかったため追記した。
7.5-11、 12	施設の稼働に伴う低周波音の予測に用いた低周波音発生機器の低周波音の音圧レベル (G 特性) を修正したうえで、オクターブバンド別の音圧レベルを追記した。	表題の低周波音レベルについては記載内容に誤りがあったため修正した。また、オクターブバンド別の音圧レベルについて記載していなかったため追記した。
7.5-23、 24	発破に伴う低周波音に対する住民反応の対応性について、低周波音による心理的反応の関係性の表を追記した。	「提言値」と、発破に伴う低周波音に対する住民反応の対応性の関係が不明であったため追記した。

表 1 2 - 1 (3) 環境影響評価準備書からの主な変更事項

該当頁	主な変更事項 (概要)	変更理由等
7.7-54～ 81、 83～85、 89～90、 92～97、 107、 197、199 ～202、 8-5	ロードキルへの対応について更なるリスク低減策として「環境配慮の指導」について追記した。	ロードキル対策について、トラックの走行速度を下げることで防ぐとされていたが、対象とする動物がカヤネズミ等小動物の場合、本当にリスクを減らせるのか、不明であったため追記した。
7.7-95	ヘイケボタルの餌資源について追記した。	ヘイケボタルについては幼虫の餌となるカワニナ類自体の生息場所への移動等が必要であるが記述がなかったため追記した。
7.7-83～ 84、 86～89、 91、95、 142～ 146、 172～ 173、204	移植の具体的な計画について、移植対象種の移植先に関する説明を追記した。	どの種をどこへ移植するかという具体的な計画がなければ、妥当性が評価されないため追記した。
7.9-15	景観の視認性に係る記載を修正した。	VP-3の視認性に係る記載について、整合がとれていなかったため修正した。
9 事後調査の方針		
9-2、4	道路交通騒音の事後調査を追記した。	施設供用時の道路交通騒音及び振動についてそれぞれ大きく上昇すると予測されたため追加した。